



● 今月の主な内容

- 100周年ニュース、イベント…………… 2～3ページ
- 市町村合併、教育を考える講演会…………… 4～5ページ
- 万一の災害への備えを、6月は環境月間…………… 6～7ページ
- 市民のひろば…………… 8～9ページ

[特集] 市民がつくる音楽文化…………… 10～13ページ



出演者とスタッフ、観客が一緒になって歌い踊った
音楽市場・アルカス会場のフィナーレ

6

月号

2002 June (No.619)

広報させば

6月1日発行



《市章》明治44年（一九一一年）10月制定。
サセボの文字を組み合わせたものです。
市名はサセボと読みます。

〒857-0858 長崎県佐世保市八幡町1の10
佐世保市役所企画調整部秘書課広報係
☎0956-241111 FAX 241184

印刷/有限会社 近代印刷

アピール Now

佐世保市国際交流員
孔 速婷さん



孔 速婷（コン・スー・ティン）さん
廈門市外事弁公室で、国際交流関連業務に携わる。国際交流員として1年間佐世保市に滞在予定。廈門市生まれ。

ことし4月11日付で、友好都市の厦門市から、佐世保市の国際交流員として着任した孔速婷さんをご紹介します。

佐世保には20回以上訪れた経験も

孔さんが初めて佐世保を訪れたのは平成4年。既に厦門市の外事弁公室に勤務していたこともあり、平成7年に長崎市内に留学していた時期も含め、佐世保へは20回以上も足を運んだそうです。
「佐世保は都会よりも住みやすく、知り合いも多いので、心強いです。一人暮らしは経験がなかった

たので、（赴任先が）佐世保じゃなかったら、私は来なかったかも知れません」と笑顔を見せます。

「日本との交流は、私の生活の一部です」

孔さんは現在、市役所文化交流課に席を置き、中国からの訪問客のお世話のほか、留学生の相談に応じたり、翻訳・通訳をこなしたりと、日本と中国の国際交流を深めるための重要な役割を担っています。

「国際交流員としてふさわしい仕事ができるよう頑張ります。それと、市民と触れ合うチャンスがあれば、身近な国際交流を深めたいです」と抱負を語ります。

中国に夫と4歳の娘さんを残し、単身赴任していますが、ほとんど毎日電話をし、メールや手紙もひんばんにやり取りしているとか。
「女性の単身赴任は、中国では普通のことです。日本の女性はよく働いていて、たくましいなと思いますよ。国際交流員としては初めての母親なので、子育ての交流もしたいです。ぜひ声を掛けてください」とのことです。

佐世保に住んで感じること

「図書館や音楽市場などのコンサートにも行きましたが、佐世保は『文化の街』という印象を受けました。市民は、物質的な豊かさだけじゃなくて、文化的に充実しているのでも、心も豊かになっていっているのではないかと思います。海外から来る人は、日本の経済や技術ばかりを学びたがりですが、心豊かな市民の育て方も学んだら、日本のイメージアップにもつながりますよね。私は佐世保に来て本当によかったです。心のリフレッシュをしています」と孔さん。

市民の皆さんへ一言

「せっかく佐世保にいますので、私にお役に立てることであれば、遠慮なく声を掛けてください」

テレホンガイド

救急・火災

● 医療機関案内 ☎23-8199
● 火災情報 ☎0180-9999-9999

女性相談(アルカスSASEBO

2階・スビカ) ☎24-6180

水曜・祝日を除く毎日、9～16時

教育相談(青少年教育センター)

☎22-0077

毎月第2、4木曜の17時30分～20時

30分には、夜間相談も受け付けます

E-ヘルプ相談(保健所健康づくり課)

☎0120-104783

6月の健康テレホン

☎23-4300

(祝日は前日の内容が流れます)

▼月汗の多く出る病気 ▼火災人

工関節 ▼水子どもの水の事故

▼木々複視 ▼金心身症 ▼土

日子宮内膜症

観光テレホンサービス

☎23-3130

こちら 広報係

このコーナーを楽しみにしている方もおられるようですが、先月号は紙面の都合で掲載できず。今月号からは特集担当者が書きます。今回の特集は市民音楽。広報紙も、市民と響き合うような紙面づくりにしていきたいものです。(一)

「広報させば」は再生紙を使用しています。